

環境変化と今後求められる検査室のあり方について

奥田 忠弘

アボットジャパン株式会社 マーケティング本部

【医療における環境変化】

日本は世界で有数のスピードで少子高齢化が進んでおり、医療・保険制度の維持運営の観点からも制度改革が急務である。まず、高齢化・生活習慣病・医療の高度化などが複合的に医療費を増大させ続けるため、単なるコスト削減を超えて医療の投資対効果の最大化という観点で今後の施策を検討・評価する必要がある。次に、医療資源の最適配分の観点から機能分化と地域医療連携の必要性が高まっているが、高度な医療を要する患者が集中する急性期病院では診断・治療の品質向上と、患者・病床回転率の向上をこれまで以上に高次で両立させる必要が高まる事が想定される。更に、インターネットの発達・普及に伴い医療情報を検索・発信する患者が大幅に増加しており、医療の質の維持・向上に加えて患者・家族に対する説明性が問われている。

【求められる医療と検査部門のありかた】

医療機関に求められる投資対効果の最大化、診断・治療品質の向上、患者・家族に対する説明性の向上などは、院内における各診療部門・他部門にも同様に求められる。すなわち、検査部門にこれまで求められてきた高精度な検査結果をより早く安定的に報告することに加え、検査部門も医療機関全体の投資対効果の最大化、診断・治療品質の向上、また患者・家族に対する説明性などに貢献できるよう、役割を拡大することが求められる。

【包括的ソリューションの構築と診断支援】

検査部門が投資対効果の最大化、診断・治療品質の向上、患者・家族に対する説明性の向上などへ貢献を高めるためには、部門内の人員・業務プロセス・検査試薬・検査機器・IT システムなどを個別に検討・改善を試行するのではなく、全体最適の観点から包括的にあるべき姿を検討・構築を行う必要があ

る。とりわけ、検査結果報告から所見の報告へ、また院内報告から患者説明へ、など役割を拡大して且つそれを安定的に実施するためには、個人に依存しない仕組み化が必要不可欠になる。

【まとめ】

高品質かつ効率的な医療を行うためには、高品質かつ効率的な診断が必要不可欠である。データの宝庫である検査部門が結果報告に留まらず役割を拡大することで、医療機関全体の経営効率、医療の品質、また患者の満足度に対する貢献を高めることができる。